

支 部 長 挨 拶

この度、日本気象学会北海道支部長を仰せつかりました札幌管区気象台長の久保田です。北海道の勤務は初めてですが、幸い、大学の先生方を初め、気象協会及び気象台職員も、気象学会に強く賛同され、細水の発行など学会活動が充実していると伺っております。皆様の力により、それを維持することによって、責任を果たす所存ですので、どうかよろしくお願い致します。



気象庁における最近の動きを見ますと、小規模現象と大規模現象の二方向に向かっていますので、紹介させて戴き、挨拶といたします。

小規模現象とは、メソ天気系モデルの開発です。本年3月に気象審議会から「欲しい時に欲しい情報サービスの出来る体制を作れ」という答申が出されました。具体的には小規模現象に対する予報の開発、ユーザーが要望する必要な予報は民間気象事業者が役割を担うことなどを答申しています。

大規模現象とは、地球環境問題です。気象庁内には、平成元年以降「オゾン層解析室」、「温暖化情報センター」、気象研究所に地球温暖化を研究する研究室を設置し、本年4月からは「エル・ニーニョ研究センター」も発足しました。

この2つの気象事業は学会活動によって恩恵を受けることが大きいと思います。メソ天気系モデルの組立てには、学会活動で得られた知見を貪欲に取り組むことが重要です。地球環境問題に関わる気候変動の観測、データの解析、解釈、モデルの組立てなどにも、学会活動による成果が、これまで大きく貢献し、今後ますます必要になるに違いありません。北海道支部の学会活動においても、これらへの貢献を期待しています。

さて、本年度は何といても気象学会秋季全国大会が一番大きな事業です。

皆さんの力によって、参加者の多くの方々が充実していたと感じる大会に出来ればと願っています。どうかよろしく願います。

日本気象学会北海道支部長 久保田 効
(札幌管区気象台長)